

一喜一憂

「喜一憂」

情況の変化に喜んだり、
心配したりすること

藤屋 倪士
(下松市幸ヶ丘)

No. 9

パレスチナのオリーブ

5月中旬。パレスチナに、クリスマスの希望とナの状況は急激に悪化した。21日にイスラエルとガザのハマスの間で停戦が合意され、少なくとも民間人への被害がなくなることに胸をなでおろした。

前回の「一喜一憂」で紹介した、ホーリー・チャイルド・プログラムのスタッフなど、私たちが知っているパレスチナの人々は、新型コロナウイルス感染症がまん延するなかでもがんばって活動を続ける心優しい人々だ。

クリスマスマッセージの中にあった、「私たちは、あなたと共に成長しなかつたのか」という言葉を、今一度心に刻みたい。

パレスチナで平和を象徴するもの、それはオリーブである。オリーブは春に薄い黄緑色の小さな花が咲き、秋に実をつけ、昨年植えたばかりのオリーブに、たくさんのが小さな花が咲いたが、植えてすぐだから、

実が成長しなかつたのかと思つていたが、そうではないらしい。

オリーブ粉ができる上木がないと実がならないと聞いた。そこ

荒れ地に積まれた石

（下松市幸ヶ丘）



春のオリーブ畠

オリーブが平和の象徴とされるのは旧約聖書の「アーフの方舟」にある、洪水を生き延びたところ、ハトはオリーブの枝をくわえて戻ってきて、地上にオリーブが育つ平和が戻ったことがわかつたという一節からである。

それと共に、厳しいリーブの木を庭の隅に植えた。運良く両方のオリーブの木に花が咲いていい。今年の秋に実がなるかどうかはわからないが、どうかはわからないが、希望を持つて待つてみた。

二つ問題を解決したので希望を持つて待つてみた。地中海沿岸地域が原産で、乾燥した気候を好むといわれるオリーブだが、全くの荒れ地に植えて根付くものではないらしい。

パレスチナでも特に南部は降水量が少なく、荒涼とした丘陵地が広がる。そのような中でも、人々は昔からオリーブを植えてきた。

オリーブは自家受粉ができる。早く冷たくなるので石の上には夜露がつく。

パレスチナではこれを利用してきた。オリーブ



たわわに実るオリーブ

（下松市幸ヶ丘）

そうである。そして樹齢何百年という立派なオリーブの樹に成長していく。

オリーブが平和の象

徴とされるのは旧約聖書の「アーフの方舟」にある、洪水を生き延びた後、ノアがハトを放つたところ、ハトはオリーブの枝をくわえて戻ってきて、地上にオリーブが育つ平和が戻ったことがわかつたという一節からである。

それと共に、厳しいリーブの木を庭の隅に植えた。運良く両方のオリーブの木に花が咲いていい。今年の秋に実がなるかどうかはわからないが、どうかはわからないが、希望を持つて待つてみた。

二つ問題を解決したので希望を持つて待つてみた。地中海沿岸地域が原産で、乾燥した気候を好むといわれるオリーブだが、全くの荒れ地に植えて根付くものではないらしい。

パレスチナでも特に南部は降水量が少なく、荒涼とした丘陵地が広がる。そのような中でも、人々は昔からオリーブを植えてきた。

オリーブは自家受粉ができる。早く冷たくなるので石の上には夜露がつく。

パレスチナではこれを利用してきた。オリーブ

が育つための力がついたところで、オリーブの幼木を植える。

このような方法で、

パレスチナでは昔からオリーブを植えてきた。（本人は入院中で執筆が難しいのですが、

このように方法で、筆が難しいのですが、関わるエピソードなどを、家族で書きつないでおきたいと思います。）